

# スマイルタイムズ

平成22(2010)年11月15日(月)発行  
 発行者 小浜市多田2-2 中山クリニック 院長 中山茂樹  
<http://www.nakayama-clinic.jp>

## 特集

### 華岡青州生誕250年

ネットで、歴史家・加来耕三氏が見出しのことについて書かれていたのでそれを要約して再録します。

江戸中期の宝暦10(1760)年、今から250年前、紀伊の国西山村(現・和歌山県那賀町)に2代続いた外科医華岡(はなおか)家に男の子が生まれました。後年、医聖と言われた華岡青州です。

青州は46歳にして、世界で初めて全身麻酔薬の開発に成功し、世界のどこでも、いかなる医師も出来なかった乳ガンの摘出手術を成功させました。

ちなみに、アメリカのW-モルトンがエーテルによる麻酔を臨床に成功し、声、高らかに喧伝したのはこの40年もあとの1846年でした。

父から医者になることを望まれた青州は当時、医学の最先端を行っていた京都へ向かいました。京都の医学界は何より実証主義的精神が旺盛で、その中で、青州が目指したのはあらゆる古典医学書の読破。中国三国志時代の伝説の名医、華陀は外科的手術におい、患者に曼陀羅草を使う「麻沸散」という麻酔薬を酒と一緒に飲ませてから手術を行ったということ学んだし、オランダの書では乳ガンは不治の病ではなく、その毒部を切り取れば完治するとの症例も読みました。一方、珍しい医療技術があればどれほど遠方でも尋ねて行きました。

彼は故郷に帰って程なく他界した父に代わり、患者の治療に当たりながら、麻酔薬「通仙散」の開発を始め、一方、「春林軒塾」を開き、門人に医学を教えました。

青州はいつも漢詩などに託して言っていました。「自分は何の富貴栄達も望まない。自然に恵まれた田舎に住んで、ひたすら瀕死の病人を救い、医術の奥義を究めたい」と。

青州は日々、訪れる患者の痛みや苦しみをどうすれば救えるか、考え続けて出した答えが「麻酔薬」の開発でした。

青州の麻酔薬は動物実験(主として犬)によりましたが、果たして人間に通用するものか、分からない。最後にはどうしても人体実験しかないが、失敗すればその人は死んでしまう。そうした青州の苦衷を知った母は人体実験に我が身を使って欲しいと申し出ました。

「老い先もそう長くはないから…」、息子の役に立ちたい

と言う。妻の加恵は母の言葉に従えません。「夫のためであるならば、それは妻たる我が身を供してこそ…」と自ら願ひ出ます。青州はこの母と妻と、我が身も含めて、数度にわたる人体実験を行うことができたのでした。そして、ついに麻酔薬「通仙散」は完成しました。

しかし、妻の加恵はその実験の過程で徐々に視力を失い、ついには失明しました。(有吉佐和子の小説『華岡青州の妻』はこの辺りを姑と嫁の葛藤として描いていますが、もとよりフィクションでしょう。) 青州の麻酔薬「通仙散」は「烏頭(うず)」または「附子(ぶし)」を用いますが、これらはアコニチンを含み、動眼神経を損なうものであったようです。

そんな妻のため青州は新居を造り、寸暇を惜しんで四方山話をし、時には阿波から人形浄瑠璃を呼んで慰めたと伝えられています。

記録に残る青州の乳ガン手術の成功の第一例は文化元年(1804)年、60歳の女性だったということです。

「眠っている間に足を切り取ってしまう、魔法のような術を使う医者がある」という青州の評判は諸国を巡り、全国から患者がやってきましたが、貧しい患者からは金を取らず、時には帰りの旅費まで持たせたと云います。紀州藩主・徳川治宝からは侍医にと何度も招聘されましたが青州は「せっかくですが、私には村に病人がいますので…」とその都度、断ったということです。

その他、青州は干ばつで餓える村民のために私財を投げ打って「垣内池」を造り、治水に尽くしました。

故郷の環境に満足し、村人と共に生きた青州は天保10(1835)年死去、享年76歳でした。日本の誇り、医者青州が亡くなってからは今年で175年になります。

(補足: 文中に麻酔薬は世界に先駆け青州が発明したものであり、アメリカではそれに遅れること40年とありましたが、その他、入れ歯は19世紀初頭、形だけ、見てくれのヨーロッパでの発明に先立つ200年も前に日本では柘植(つげ)の木(緻密で固く、抗菌作用有り)で作られていて、鋳で打ち付け実用として嚙めたと云われています。また、平賀源内は竹とんぼを作っていて、世界初のプロペラ原理の発見者ということになります。江戸時代から、日本人は知的水準を初め、教養、品格ともに高かったのです。)

… … … … … … … … … …

《あとがき》当院、待合室ミニ・ギャラリーは前回小林裕子さんの絵でしたが、11月からは第53回、木越和夫さん(小浜市雲浜)の彩色、スケッチ画です。緻密な草花の絵です。ご鑑賞下さい。